

# 翻訳者に求められるリサーチ能力 - 「世界観」の翻訳に不可欠なリサーチ能力 -



## ●プロフィール

田中 絵麻

2000年早稲田大学アジア太平洋研究科国際関係学修士課程終了。

2005年同博士課程満期退学。メディア産業政策とイノベーション論を中心にICT分野に関する研究に従事。

現在、(財)マルチメディア新興センター勤務。バベル翻訳大学院 (USA) インターネットサーチ教授

## 語

### 学とは文化を知ること

インターネット・サーチ講座を担当した田中絵麻です。その関係から、今回翻訳者に求められるリサーチ能力について、多少解説的な記事を書かせていただくことになりました。インターネット・サーチ講座では、インターネットを活用して、翻訳に役立つ情報収集方法を体系的に講義するというコンセプトで内容を組み立てました。また、インターネット・サーチ講座では、単にインターネットを活用する、ということに留まらず、リサーチ能力の向上のなかにどのようにインターネットを位置づけ、翻訳の質を高めるか、という点に主眼があります。その上で、実例や便利なサイトの紹介を混ぜながら、インターネットを活用しつつリサーチをいかに効率的に進めるか、ということを講義しています。

リサーチ能力の向上とインターネットの活用について具体的な話に入る前に、なぜ、翻訳にリサーチが必要なのか、ということについて多少触れたいと思います。

個人的な話になりますが、以前、フランス語と英語に堪能な方の下で辞書の編集アルバイトをし

ていたとき、その方は「語学とは文化を知ることなんだ」といつも言っていました。最初は聞き流していたのですが、徐々に、語学には、その言葉を使う人々の文化-考え方、歴史、風物などが反映されており、語学を学んでいくというプロセスは、すなわち文化理解につながっていくものでなければならない、ということがわかり、その後の自分の語学に対する姿勢が変化したきっかけとなっています。

しかし、この「文化を知る」ということは、簡単なようで難しいことです。文化を知る直接的な手段としては留学や海外への移住があります。ただし、留学による文化理解は時間とお金がかかります。柔軟に考えれば、語学能力の向上と文化理解は別個に進めることも可能です。また、グローバル化の進展により、留学以外にも、学校における講座、書籍やイベント、来日している外国人との交流など、多様な手段で外国のことを知ることがますます容易になっています。無論、留学や移住と比較すると、偏った情報になるかも知れませんが、特に日本における海外情報へのアクセスは他国と比較しても質量共に豊富です。日本にいながらにして、多くの情報にアクセスできる環境にいる恩恵を活用しない手はありません。

翻訳が語学能力を前提としている以上、その言語の文化にどの程度精通しているかは、翻訳能力にも影響を与えます。政治経済、芸術歴史、現代風俗など、関心のある分野から情報収集していくことが大切なことではないか、と考えています。

## リサーチの基本

インターネット・サーチ講座では、実際の翻訳にリサーチを活用する前段階の準備として、リサーチの基本について講義しています。そのエッセンスをここでまとめてご紹介します。まず、情報収集していく際に最も重要なことは、「自分は何を知りたいのか？」を明かにすることです。そのため、なにか調査しようと思った場合、まず、「自分の知っていること」と「現状では知らないこと」を区別し、「知りたいこと」を明確化しなければなりません。そのための方法論として、インターネット・サーチ講座では、「質問を作る」という演習を行っています。まず、知りたいことがある分野を選択していただき、その分野で知りたいことを3つの質問文にします。文章にするなかで自分の関心の輪郭がわかってきますので、一度お試しください。例えば、オートバイという分野を取り上げるとすると、知りたいことを質問文にします。質問文の例を挙げると、「各社の発売中のオートバイの価格はいくらか?」、「ハーレー・ダビットソンの歴史上で人気のあった車種は何か?」、「オートバイの燃費のよい車種は何か?」などのようになります。これはあくまでも例ですが、こうして3つ並べると、ある人がオートバイの購入を検討していること、ハーレー・ダビットソンを考えつつも石油価格や人気を気にしていることが伺えると思います。

次にリサーチで重要なことは、知りたい情報の所在を知ることです。例えば、オートバイの価格を知りたい場合には、いくつかの選択肢があります。販売代理店に行く、オートバイ雑誌を購入する、インターネットで販売メーカーの情報を探す、のように、情報を入手する手段は複数あるのが普通です。ただし、一般的に、知りたい内容の専門性が高くなるにつれて、情報を入手することは難しくなります。そこで、どのような情報がどこにあるか、ということを考えながら質問に対応する情報を集めていくことが大切です。知りたいこと

が最新情報であれば、雑誌やインターネットを活用することが望ましく、まとまった背景知識を得たい場合には、書籍にアクセスした方が目的に合った情報を入手することができます。

質問に対応する情報を収集したら、次に重要なことは、その情報を質問に対応する内容に編集しなおすことです。通常、知りたいことに直接に合致する情報ばかりがあるわけではありません。その場合は、複数の情報を組み合わせ、自分の質問に合った回答を作成することになります。このように、リサーチの作業では、「分からないこと」「知らないこと」を出発点としている点が、学校における学習と異なります。リサーチ能力を向上させることは、自分の関心分野に主体的に関わって、知識や理解を向上させることにつながります。

## リサーチにおけるインターネットの活用

インターネット・リサーチ講座では、リサーチの基本を踏まえて、インターネットの活用方法を講義することに主眼を置いています。インターネットは元々米国の学術ネットワークとして発展したことから、リサーチに適した手段です。最近では、検索エンジンが発達しており、キーワード検索で多くの情報を入手することができます。先ほどの知りたいことを質問文にする、という作業の応用で、知りたいことのキーワードを抽出し、検索エンジンで検索すると、多くの関連情報がヒットします。

さきほど、質問にあった情報源を想定する、と述べましたが、インターネットの場合、その情報源そのものがウェブ上にある場合もあります。例えば、現在の日本の年金システムを知りたい場合、社会保険庁のウェブサイトに行くと、解説ページがあります。さらに特定のサイト内を検索する機能（Google で利用可能です）など、検索エンジンの活用方法を学ぶとより効率的にインターネット上の情報を検索することができます。

ただし、インターネットを活用する際の留意点

として、インターネットは、リサーチにおける情報源の一つであり、複数の情報源を活用する必要があるということがあります。専門的な分野の情報では、書籍や場合によってはインタビューすることがもっとも効率的な場合もあります。そうした場合でも、どの書籍に必要な情報がありそうか、誰が詳しいのか、ということなどを調査するためにインターネットを活用することかできます。

ただし、インターネットにも問題があります。皆さんご存知のように、インターネット上の情報は玉石混交と言われています。そのなかからどの情報を取り上げるか、についても先ほどの情報源を想定する、という作業が役に立ちます。通常、一次情報という、情報の発信源に近い情報の信頼性が高いことが多く、一次情報に対する解説などの二次情報については、主観が入る場合が多くなっています。そこで、インターネットで調べた内容を、必要に応じて、情報源で選別することで、より早く必要な情報にたどり着くことができます。

なお、インターネット上では、検索エンジンに直接ヒットする情報と、あるサイト内にあるデータベースを検索することでヒットする情報があります。後者の典型的なものが、図書館サイトや書店のサイトになります。こうしたサイトでは、大量の有用な情報を蓄積している場合が多いのですが、検索エンジンからはヒットしません。そこで、こうしたサイト情報を適宜お気に入りなどで管理し、リサーチの際に活用していくことが大切になります。また、関心のある分野に関する情報が豊富で更新が頻繁なサイトなどが見つかった場合にも、お気に入りなどで情報源とするとリサーチ能力の向上につながります。

## 原典の「世界観」の翻訳とリサーチ能力

さて、「語学とは文化を知る」ことを翻訳に当てはめてみると、「翻訳とは文化を翻訳する」と

言えそうです。言い替えれば、翻訳の場合には、素材である原語の文章（原典）がありますので、その原典の内容や背景を理解することになります。また、こうした翻訳する原典は、それぞれ「世界観」があります。「世界観」ということ大げさになりますが、ここでは、金融分野や医療分野などの「分野」ほどの意味でご理解ください。各分野の「世界観」を知ることは、「文化」全体を理解することと比較すると、ぐっと範囲が狭まります。まとめますと、「翻訳とは（その原典の）世界観を訳すこと」と言えないでしょうか。

こうしたある程度特定された分野におけるリサーチでは、インターネットを活用することが有用な場合が多くあります。実際的な面では、インターネットを辞書の補助として活用することもできます。ウェブ上には無料で有用な辞書が公開されているほか、機械翻訳のサービスも提供されています。

また、その原典の世界観という面で見ると、その原典の位置づけや背景、著者の情報など、インターネット上で関連情報を収集することで、原典理解が深まります。こうした理解があるかないかで、翻訳の正確性にも影響があると考えています。例えば、文学作品などでは、特定の用語は特定の階級でしか用いられない場合があり、こうした知識があるかないかで、文体の選択が左右されます。最近では、Wikipedia というインターネットの利用者が編集可能な百科事典の内容が充実してきています。なお、インターネット上の情報の利用は自己責任ですので、内容の正確性については書籍等でチェックするなどの作業をしてください。また、Google では、画像や写真などのイメージを検索することができます。イメージを検索することで、多面的な理解が可能になります。最新の動向としては、Google ストリート・ビューがあります。これは、世界主要都市の公道を立体的な画像で歩くように見る事ができるものです。各地の町並みなどの雰囲気を知ることができます。

このように、インターネット上の情報やインターネットを手がかりとした情報によって、原典

に対する理解が深まります。リサーチ能力は、知りたいことを的確に調べる能力としますと、原典で知らないことがあった場合、質問のキーワードを組み合わせてインターネットを検索することで解決する場合もあると思います。また、インターネット上では、新サービスが次々と登場しており、情報源が拡大しています。こうしたサービスについても、必要に応じて使いこなしていくこともリサーチ能力に含まれると思います。

## 文 化の翻訳に向けて

翻訳者が取り組んでいるのは、単にある特定言語の内容を別の言語に移し変えるということではないように思います。翻訳では、文化を知るという意味での真の語学力が必要とされるのではないのでしょうか？それは難しいとしても、原典の「世界観」を翻訳する能力は、よりよい翻訳に不可欠であると考えます。インターネット・サーチ講座では、リサーチ能力を「情報を収集して知識に組み立てる力」として位置づけ、翻訳する原典の世界を理解して、その内容を伝えるために不可欠な能力と考えています。

さらに、インターネットは、海外が発信源の情報にも直接アクセスできるというメリットがあります。特定のトピックについてどのような報道がなされているのか、関連記事なども調べることができ、インターネット上にある議論についてはほぼリアルタイムでフォローすることもできます。

現代においても、翻訳という「作業」ではなく、異なる文化間の翻訳という「文化」と「文化」の架け橋としての翻訳の役割は、重要だと思えます。金融など、動きが早く、新しい用語が次々に出てくる分野もあります。こうした分野の翻訳では、専門的な知識や理解があるかないかで、正確性や翻訳の速度に影響がでます。逆に、多様な情報にアクセスできるからこそ、個別分野における深い知識、背景や文化の理解を基礎とした翻訳の重要性はさらに増していると思います。

大変駆け足のインターネット・サーチの解説となりましたが、インターネットの長所を活用してリサーチしていただく一助となれば幸いです。

